

市の境界線を越えて、隣接する市の学びに役立つ場所・スポットを巡る散策取材。今回は西のお隣・国立市の南部へ。府中駅からバスで10分余りの谷保天満宮から歩いてみた。



国立市南部を訪ねて

国立と言えば中央線国立駅周辺の洒落た商店街や大学通りの満開の桜が思い浮かぶが、今回は市の南部に点在する名所・施設を巡った。

最初は**谷保（やば）天満宮**。ここは我家からさほど遠くないのに何故か来る機会が無く、前回の参拝時期の記憶が無い。今回、東日本最古の天満宮と知って今までの疎遠を多いに反省。「近い内にまたお参りします」と礼拝してから、次に向かった先は**城山（じょうやま）公園**。そして**国立市古民家**と、**くにたち郷土文化館**。訪ねたのが2月だったので、時節柄どちらでも雅な昔のひな人形を見ることができた。

特に郷土文化館は立派な施設で、国立出土の土器・石器や祭事に使う道具などを多数展示して見応え充分。国立市の生涯学習の一翼を担う場所になっているようだ。

この後は清流豊かな用水路に沿って**ママ下湧水**を目指す。流れの中には無数の小魚が泳ぎ、野生のクレソンが緑に輝いている。そしてようやく辿り着いた湧水は、とても豊富で綺麗に澄んでいた。気付けば既に午後1時。腹は減ったが、国立市の文化と自然を大いに楽しんだ3時間であった。（竹村 稔）

谷保天満宮

受験シーズンに学生さん、親御さんと賑わう谷保天満宮は、義経公による大般若經の書写が社宝とされているとのこと。義経公はどのような心境で筆を走らせたのであろうか？周知のように要約された般若心経には「色即是空 空即是色」とある。参拝した受験生は人生を送る中で折に触れ、この8字を噛みしめることがあるのであろうかとふと思った。紅白咲き乱れる梅林を奥へ進むと、崖線の上から美しい白富士が眺望できた。西行法師の「かたじけなさに涙こぼるる」という下の句が思い浮かぶほど余りにも見事な姿に清々しい気分になれた。

名物の合格まんじゅうと梅こぶ茶などが並ぶ売店を横目で見て、天満宮をあとにし城山公園へ向かった（中濱敬文）



城山さとのいえ

今回の取材で歩いた城山公園は、中世には豪族の城郭があったと案内板にある。木々がのびのびと繁り、夏場は木々に涼しさを感じられることと思う。

ここには「城山さとのいえ」という建物があり、国立市内の「農」にまつわる情報などが紹介されていた。隣には古民家があり、囲炉裏や土間では昔の暮らしの様子が見られる。季節ごとに体験できる催しもあるとのこと。伺った日は係の方が囲炉裏に火を焚べていらした。今ではスイッチひとつで暖房や食事の用意ができてしまう。暖をとり食事の用意を囲炉裏を囲んでしていた頃の様子を思い浮かべながら奥の間を見てみると、畳敷の部屋があった。家族で一つの部屋で寝起きしていた頃のワイワイガヤガヤとした暖かさが・・・

なんとなく笑顔になれた。（辻 麻美）



ハケ下の散歩道

谷保天満宮からハケ下のかつては稲田であった低地の住宅街を歩き、ところどころに残る畔道を経て、城山公園を訪ねた。鬱蒼とした雑木林と竹林に覆われた小高い丘には、中世に豪族の館があったという。湧水が流れ、広い芝生があり、こどもたちの格好の自然の遊び場だ。「城山さとのいえ」があり、この地域の農業に関する情報発信の拠点となっている。すぐ前に広がる水田で田植えや収穫体験ができるそうだ。



城山公園から、ヤクルト研究所の特徴ある円形の建物を周回してハケ下の小道を歩いた。冬なので、色のある花はなかったが、道端の葉っぱを落としたかん木や、脱色して枯れた草々を見ながら春の色とりどりの花々を想像して歩くのもまた楽しかった。ハケ下の小川には緑の水草があり、湧水が流れ、小魚が群れていた。まだ水は冷たいので、川遊びはできそうにないが、春になれば子供たちの遊び天国になるだろうと想像できる。小川の流れが広くなったところには、カルガモ家族が遊んでいたりと、セキレイの黄色い姿があつたりの、この国立市の谷保界隈は実に自然が豊富な、古き良き時代の里の風景を思い体感させてくれる。

大都市近郊にこんな癒しの空間があることはかけがえのない財産で、ぜひ大切にしていってほしいと願う。（奥野英城）

くにたち郷土文化館

くにたち郷土文化館は城山公園から徒歩7分ほどのところにあります。雑木林に囲まれた近代的な建物がその文化館。矢川駅にも近く、歩いて10分位です。

メインテーマを「過去・現在・未来を結ぶ一多摩川が育んだ段丘（ハケ）とともに生きる私たち」とし、生涯学習の一翼を担う場として地域に根ざした博物館・文化館をめざしているそうです。

中に入るとすぐそばにある緑川東遺跡から出土した土器や石器などの品々が展示されています。機械など何もない時代に作られていたことに驚嘆しました。

また私たちの祖先も使っていたであろう民具などの展示もあり、懐かしく見入ってしまった。大國魂神社の例大祭を思わせる神輿も置かれていて、どこでも祭りごとは人々の楽しみだったに違いないと思いました。（井口文江）

